

六、鈴村十蔵遠近合戦書付

解説

天正十年（一五八二）の山崎合戦から、寛永十五年（一六三八）、島原の乱における原城落城に至る戦国末・江戸初期の合戦の数々を書き上げたもの。江戸前期の万治二年（一六五九）、鈴村十蔵なる者と今関伊右衛門なる者の間でこの書き付けのことが話題となり、鈴村がこれを探し出したところ、あちこちが破れていたため、改めて書き直したものが本文書であるという。文禄・慶長の役を「始高麗・後高麗」、大坂冬の陣・夏の陣を「始大坂・後大坂」と記すなど、江戸前期における戦国末・江戸初期に対する歴史認識を知る上で、貴重な史料といえる。